

第5回養老町子ども議会を開催

令和3年 11月 24日 午後4時より 養老町役場 4階議事堂において



第5回養老町子ども議会が養老町役場議事堂で、開催された。

高田・東部両中学校の3年1名ずつが議長となり、また、各クラスの代表2名ずつ合計14名が議員になり、養老町の将来について自分たちの考えを提案発表した。生徒は4月から、身近な課題に目を向け、アンケート調査や、ポスター作成などに取り組んできた。

昨年に引き続き今年も、新型コロナウイルス感染症防止のため、各中学校2年生の生徒及び先生は、議場の傍聴席で間隔を開けて傍聴をし、保護者及び議員は、4階大会議室でライブ映像により傍聴した。



中学生は各クラスで話し合いを重ね、まとめた意見や提案を発表した。それに対し、町の担当課より現在取り組んでいることを踏まえ、参考にできることなど感想を述べた。

中学生の主な意見・提案

- ・幅広い世代でオンデマンドバスを活用出来るよう、ポスターなどPR方法を提案。
- ・養老町の魅力を発信するため、PR動画を作成し、メディアなどで広める。
- ・「関係人口」を増やすため歴史・文化・自然・特産品などの情報発信となる。



- ・各クラスで分析・整理をし、自分たちで作成したPR動画やポスター、調査結果などを基に、実現した場合の例などをプレゼンし、どの生徒も緊張しながらも、説得力のある提案を、元気に堂々と発表した。
- ・スマートフォンのアプリの開発を提案。
- ・養老の資源を活かした産業や開発している町民を応援し協力する。
- ・町民憲章にある「美しい」町を持続するため、自分たちからごみ拾いを広めていく。
- ・様々な世代の人が利用できる町施設を発信し、スポーツが出来る町を目指して。 など

中学生の感想

- ・他校や他クラスの発表から自分が知らなかった養老町の課題が身近に多くあることがわかった。
- ・色々な視点から養老町を見ることで、様々な気づきがあった。
- ・来年度は議会の様子を取りモットで発信できれば良いと思う。
- ・自分で養老町の色々な施設に行ってみるのも大切だと思った。
- ・幅広い年齢の意見を聞くことは大切だと思う。
- ・子ども議会に参加して、養老町の課題を考えるきっかけになった。自分ができることを考えて養老町が良くなるように頑張ります。
- ・議会が終わり、達成感と同時にふるさと養老への想いが強くなった。
- ・提案にあった「オンデマンドバス」を高校の通学手段の一つとして活用できたら、ありがたい。
- ・養老町のこれからの政策にますます興味がわき、もっと知りたいと思える良い機会となった。



あれからどうなったんやあ〜 シリーズ 101

このシリーズは、過去の定例会（今回は令和2年12月議会）で一般質問に関して、その後の状況をお知らせするものです。

問

旧池辺体育館は平成28年度に解体設計がされ今年度解体予算が計上されたが入札不調となった。また、跡地利用は。

答

来年度に向け設計内容を見直している。用地の利活用は地元の要望等を勘案し、有効活用を検討していく。

こうなりました

解体工事については、設計内容の一部を見直し発注し、令和3年4月22日に入札しました。令和3年4月28日から令和3年8月31日までの工期で、令和3年8月25日に完了しました。

施設解体後の跡地の利活用については、地元から利活用するための要望もあり、年度内には活用出来るように現在協議中でありま



問

防災行政無線のデジタル化に伴う防災ラジオの代替手段は？

こうなりました

防災行政無線のデジタル化に伴い、アナログ式の防災ラジオは防災行政無線を受信できなくなりました。それに伴い、町では、防災アプリ及び登録制メール「あんしん防災ネット」による防災行政無線の情報配信システムを令和元年度に整備し、さらに令和3年8月からはLINEによる情報配信も開始しました。

令和3年12月末現在の防災アプリのダウンロード数は1,745件、あんしん防災ネットの登録は4,906件、LINEの公式アカウントは752件となっており、毎月の広報紙にQRコードを掲載するなど、普及を図っているところです。

その他にも、デジタル式の戸別受信機の有償貸与、自動電話応答装置による放送音声の再生及び放送内容の町ホームページに掲載といった多種多様な方法で情報配信を行っています。

防災アプリQRコード



防災アプリ（イメージ画面）



議会に対しての意見

シリーズ 39

住民の声

このシリーズは、町内の各種団体の代表や副代表等の方へ、編集委員が意見をお聞きし、その記事を掲載するものです。

『町議の間』町おこし案を議論して

◎養老町の進むべき方向

※町の特色と問題点を見つめ直し、将来の姿を創造して欲しい。

※あるべき姿を、幅広い視野で立案し、方向性を明確にする。

◎情報の収集

※広く全国の先進地を視察する。

※国や県議会議員と連携を密にし、情報収集に努める。

※国内の町おこし団体と連携する。

※近隣市町と定期的に協議を行い、意見交換をする。

※他地域の特徴ある活動を探る。

※全国の成功事例を収集する。

※行政に方向性を示し提案する。

夢のある将来像を、議論して下さるようお願いいたします。

(町内在住 M・Fさん)